

～小国公立病院の外来待ち時間について～



利用者(患者さん)側の立場であれば、堀江氏と同じ気持ちになられる方が多勢でしょう。

小国公立病院には「ご意見箱」が設置してあり、その中に、定期的に入ってくる「ご意見が「外来の待ち時間が長い」「予約時間通りに診察に入れない」というものです。

ネット上にこのような記事がありました。

「慈恵医大病院で腎臓結石破碎から数ヶ月後のアフターケア診断。10時30分予約でピタリに行ったのに未だ診察待ち」

ホリエモンこと堀江貴文氏が、SNSで「うつぶやいた時刻は11時52分。この時点で病院外来で1時間20分以上、待たされていたことになる。」

結局、堀江氏は「次の仕事に間に合わないので診断受けずに1080円払って退散」したよう

で、「やっぱりダメだな日本の医療業界。安からう悪かろう。医療保険制度の改革も必要だし、病院経営も改める所多し」とも続けた。

ネット上で賛同するコメントが寄せられると「人の時間を何だと思ってるんだ？って事。寿命を伸ばしに来てるのに待ち時間で人生を浪費するという矛盾」など、堀江氏らしいコメントを返している。

反対意見として、「病院の予約は時間帯の予約だからその時間に入れるわけではない」「お金があるなら金持ち向けの病院へ行けばいい」といった内容のコメントも寄せられた。

大学病院の待ち時間が長い、というのは今に始まったことではないが、確かに待つてみるに驚くほどの人が診察を待っている。

1時間待たされるのはザラで、なかには「半日ばかりで待つて診察は3分」と表現する人すらいる。

(以上、Diamond Onlineの内容より一部改変)

ゆたあ〜と

発行
小国公立病院
0967-46-3111
おぐに老人保健施設
0967-46-6111
訪問看護ステーション
0967-46-6050

36号
令和元年9月25日

小国公立病院
HPアドレス
<http://www.ogunihp.or.jp/bind/>



日本中の病院で待ち時間問題を改善しようとするシステムが検討されていますが、若干の改善はできますが、解決のための有効な手立てはなかなか見つかっていないのが現状と言わざるをえません。

予定外の緊急事態に対応する事が日常茶飯事である医療の性質と、医療需要と供給のギャップで、外来待ち時間の解消は、とても難しい問題なのです。

医師の数が十分に確保できている都会でもこの様な状況です。ましてや、人口に対する医師数が全国でトップクラスに少ない小国郷では、この状況はさらに拍車をかけています。



阿蘇医療圏域の人口に対する医師数は全国335圏域中321位と下から15番目です。

さらに阿蘇圏域の中でも小国郷は医師数の少ない地域なので、医師1人あたりの担当患者数がとても多く、すなわち、全国で有数の外来待ち時間になってしまってもおかしくありません。

当院では、予約制を取り入れてからは、受付から会計までの平均時間は1時間程度であり、同規模の病院の中では、待ち時間が少ない方かと考えます。

一方で、予約制にすると、待ち時間は少なくなるのですが、待たされている感覚が顕著になり患者不満は増すというデータ

ある統計によると、30分〜1時間の待ち時間でも「不満」を感じる人が3分の1程度、1時間以上待つと「不満」を感じる人が50%を越えるとのこと。

待合室で過ごす時間を快適にし、待ち時間を不満に感じない為の病院側の工夫も必要なのかもしれません。

予約時間に対する病院側と利用者側認識の違いがあることも不満を生む原因となります。

病院としては、「予約時間」は「病院の受付をしたらもう時間」と考えているのですが、患者さんは「診察室に入ってから診てもらう時間」と考えている事が多い様に感じます。この認識のギャップを埋める努力も必要と感じています。

少人数の医師で外来と2つの病棟を運営している当院では、外来中でも病棟や救急患者への対応が必要であり、時間の不確定要素がとても多いので、時間通りに外来診療を行えない事態がしばしば起こっています。

ある程度の待ち時間に関しては、ご理解頂きますとともに、何か良いご提案がありましたら、遠慮なくスタッフにお伝えいただけますと幸いです。

(小国公立病院 副院長 片岡恵一郎)

「第26回ふくし夏まつり」にて、糖尿病の啓発・糖尿病の未治療及び中断者への接触・住民健診の受診率向上などを目的とした「無料血糖測定会」を「小国郷糖尿病対策チームブルー(※)」で企画・実施しました。

小国郷糖尿病対策チームブルー「血糖測定会」活動報告

日時：2019(令和元)年8月3日
会場：JA阿蘇小国郷集出荷場
主催：ふくし夏まつり実行委員会



先日、小国町で開催された「第26回ふくし夏まつり」にて、糖尿病の啓発・糖尿病の未治療及び中断者への接触・住民健診の受診率向上などを目的とした「無料血糖測定会」を「小国郷糖尿病対策チームブルー(※)」で企画・実施しました。



血糖値を測定された方には、血糖値・糖尿病のパンフレット・住民健診のご案内・低カロリー甘味料・熱中症対策の団扇を糖尿病テーマカラーであるブルーのクリアファイルに入れてお渡ししました。

実際、当日の採血にご協力いただいた住民の皆様には大変感謝しております。

計画当初は、17:00~21:00で100名の血糖検査を目標としておりましたが、19:00の時点で100名に達し、用意した測定チップも使い果たし、住民の皆様の糖尿病に対する意識の高さが伺えたように思います。



※小国郷糖尿病対策チームブルーとは

小国公立病院所属の熊本地域糖尿病療養指導士(看護師7名・作業療法士1名・臨床検査技師1名)と医師1名、小国町・南小国町の保健師と栄養士の多職種で構成された組織。糖尿病専門医が不在の小国地域にて、お互い連携を図り、糖尿病患者へのアプローチや啓発など、様々な活動をしております。



老健便り① 誕生会がありました!

7月22日に、利用者様で7月、8月生まれの方の誕生会がありました。

誕生会を盛り上げるため、今回は職員による出し物『おぐに老健夏場所』が行われました。

変顔メイクをした6人の職員が相撲のコスチュームを着て、真剣勝負で挑みました。



面白いメイクでの真剣勝負の戦いは大盛り上がりで、皆さんに楽しんで頂けたようです。



今年の12月7日は「大相撲阿蘇小国場所」が小国ドームで行われるので、それも楽しみですね。



利用者様といざ勝負!!

番外編

梅木川柳

おぐに老人保健施設の通所リハビリを利用されています梅木初喜様は、趣味で、俳句や短歌などを詠い、新作をスタッフに見せてくれます。ゆたあ〜と新聞に載せることを承諾頂き、新作をひとつご紹介致します。

ボケはじめ

夫婦喧嘩は

良い薬

☆新職員紹介☆



さかもと りょうすけ
坂本 遼介

理学療法士

7月より理学療法士として小国公立病院に入職しました坂本です。小国に引っ越してきてまだ2ヶ月ですが、小国町の自然や美味しい料理に日々癒されています。また、小国公立病院の一員として、患者様に寄り添い、質の高いリハビリを提供できるよう頑張っていますので、よろしくお願いいたします。



むらかみ たかひこ
村上 貴彦

理学療法士

こんにちは。今年の8月より小国公立病院リハビリテーション科で勤務させて頂くことになりました村上貴彦と申します。生まれは阿蘇市(旧阿蘇町)、現在は熊本市に住んでいます。これまで大分県竹田市の地域医療に携わってきました。小国でも患者様やご家族の気持ちや希望に寄り添い、地域の和を大切に、皆様にリハビリや健康増進にお役に立てる事ができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



しもやま けいたろう
下山 敬太郎

理学療法士

9月より入職しました下山と申します。福岡出身で地元ではないのですが、小国郷に住み、小国町外一ヶ町公立病院組合の一員になれたことを光栄に感じております。理学療法士8年目になります。今まで医療保険で亜急性期、回復維持期、介護保険でのリハビリを経験してきました。この経験を生かして少しでも皆様の力になりたいです。今後とも宜しくお願いいたします。

老健便り②

夏祭り

今年も盛り上がりました!!

8月9日に、毎年恒例の「おぐに老人保健施設 夏祭り」がありました。

利用者のご家族も参加され、一緒に食事をしながら、Chicken hearts crewの皆さんによる「ヒップホップダンス」のお披露目や、上津江診療所の山崎先生による「歌のオンステージ」、職員による「相撲ダンス」などの出し物を楽しまれました。最後には花火が上がり、笑顔いっぱいの夏祭りになりました。

参加して頂いたご家族の皆様、ボランティアの皆様、ありがとうございました。



ヒップホップダンス



山崎先生のオンステージ



相撲ダンス



綺麗な花火に笑顔いっぱい



総司会。盛り上げてくれました



美味しかったです



～ある日の夕暮れ。二重虹と夕暮れ～

(撮影者) 川北リ助手 渡辺あゆみ

